

Citation: Evans DJ, Cullinan P, Geddes DM, Walters EH, Milan SJ, Jones P. Cyclosporin as an oral corticosteroid sparing agent in stable asthma. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 4. Art. No.: CD002993. DOI: 10.1002/14651858.CD002993.

CRG名: Cochrane Airways Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 2 September 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 11, Update

背景: 慢性重症喘息患者はしばしば経口コルチコステロイドの長期処方に依存性である。ステロイド使用は重度の副作用を伴う。このような患者を治療する医師は、経口ステロイド長期服用の必要を減じる代替治療を探し続けている。シクロスポリンは免疫抑制薬であり、多数の炎症性疾患の治療に有効性を有する。それゆえ、有効である可能性がある点でもステロイド節約薬としても、慢性重症喘息の治療における有望な薬剤として同定されている。

目的: 本レビューの目的は、ステロイド依存性慢性喘息患者の治療におけるシクロスポリンの経口ステロイドへの追加投与の効果を評価することであった。

検索戦略: Cochrane Airways Group Specialised Registerおよび同定した論文の参考文献リストを検索した。最新の検索は2010年9月に行った。

選択基準: ステロイド依存性成人喘息患者を対象としてシクロスポリン追加とプラセボ追加を比較検討しているランダム化試験。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に試験の質を評価し、データを抽出した。欠失情報を得るため、研究著者に連絡を取った。

主な結果: 3件の試験が本レビューの選択基準を満たし、合計106例の患者がこれらの研究に集積された。98例の患者のデータを解析できた。ステロイド用量削減に関してシクロスポリンに小さいが有意な治療効果があった (SMD -0.5、95%CI -1.0~-0.04)。1件の研究が肺活量の小さいが有意な改善を示したが、肺機能の測定値についてメタアナリシスを行うことができなかった。

レビューアの結論: シクロスポリンによる変化は小さく、臨床的意味は疑わしいものである。シクロスポリンの副作用を考慮すると、入手可能なエビデンスは、経口コルチコステロイド依存性喘息の治療におけるシクロスポリンのルーチンの使用を推奨しない。

(監訳 尹 忠秀)

翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。